

いつも ACEF の活動をご支援いただき、ありがとうございます。今年もたくさんのボランティアさんが ACEF の活動を支えてくださっています。

## ①看護師ボランティア



### 【帝王切開で無事に生まれた赤ちゃん】

毎日何人も baby は生まれていて 1 日だけでも 5 人の出産に立ち会うことが出来ました。生まれてすぐに一緒に体重を測らせてもらって 3.0kg ちょうどの子。

外来は日本ならすぐ入院なくらいの人もお金や家族と相談してそのまま家に連れて帰っている人が多かった。そして外来では朝のミーティング後に手と指と足を鳴らしてみんなでリズムを奏でてから仕事をスタートしてたのがケニアっぽかった。

HIV の外来では今日だけで 50 人以上の人が受診に来たカルテが置いてあって、3ヶ月に 1 回の受診らしいからどれだけの人がこの病院に来てることか。エンブは少しだけ田舎のほうだから、ケニア全体だとどれだけの患者さんがいることか....

小児外来も成人の外来よりママと baby で溢れてた外来、OPE 室、ICU、マタニティ、小児は見させてもらったけど、結構大きくてまだまだ見たいところはあってもう少しいたかった

見学だけとは言っても、医療英語の壁はまだまだ高く、治療だからなんとなく言いたい説明は想像出来

るけど勉強しないとぜんぜんわからないことだらけ。それでも visitor にとってもフレンドリーで食べ物やチャイを分けてくれる国民性に本当に感謝です

## ②美容師ボランティア

エンブ大学に参戦。日本では、高校を卒業してからすぐに専門学校に行ったので、“大学”の空気感に触れるのは初めて。イメージとしては、好きな科目を選んで、それに合わせたスケジュールを組んでいくが、ケニアでも同じように科目を選んで授業を受けているらしい。日本人が珍しいのか、ゲートをくぐるとみんなの視線が痛かった(笑)

その中でエンブ大学のビューティクラスに参加！シャンプーレッスン、カラー塗布、メイクアップのレクチャー。大学ということだけあって道具も十分なくらい揃っていた。ただ日本の技術を教えることが大切ではなくて、ケニアにある道具を使っていかにダメージレスに。そして求められた技術を施術できるかが大きな課題。その課題をクリアしていくのがかなりおもしろい。

実際にケニア人から学ぶ技術も多い。ケニアの技術を否定からではなく、まずは受け入れること。それからアクセントとして、ちょっとしたアドバイス。価値観を合わせるだけで、言葉が伝わらなくても伝わる技術。



### 【美容コースで指導 エンブ大学にて】

## H.I.S.とのコラボツアー

旅行会社大手 H.I.S.とのコラボで「ありのままのアフリカを知る旅」と題したスタディツアーを実施。これまでに2月、5月、9月と3回催行しました。参加者さんからは、「観光ではない、本当のアフリカの現状を知りたい」と思って参加した。次はもっと滞在し、皆さんのお手伝いがしたい」と満足の声を頂戴しました。野生動物を見るサファリもいいですが、ケニアの現状を知ってもらうため、公立小学校訪問、ケニア人茶農家でのホームステイ、そしてなかなか出来ない目玉体験もしていただきました。



### 【カンガを腰に巻き、10キロ缶を背負う参加者】

蛇口をひねれば水が出る日本人にとっては全く未知の世界ですが、このスタディツアーのテーマは「ありのまま」・・・というわけで、もちろん水汲み体験してもらいました！水が満タンに入ったタンクは予想以上の重量。「重ーい！」とヨロヨロしながらも川から牛のリアカーまで無事に運ぶことが出来ました。みなさんケニアへの嫁入りはバッチリです。水が簡単に手に入る環境は”当たり前”ではない。日本の便利さに感謝の気持ちがあふれたようです。(現地レポート)

振込先:

郵便局から(窓口・ATM・ゆうちょダイレクト):

ゆうちょ銀行 振替口座 番号:00930-8-66355 アフリカ児童教育基金

銀行から: ゆうちょ銀行 ○九九(ゼロキュウキュウ)店 当座0066355 アフリカ児童教育基金

\*銀行からは氏名と金額しか確認できません。

領収書が必要な方は、住所、氏名を 電話かメールでお知らせください。

発行人: 〒632-0063 奈良県天理市西長柄町 265-4 (特非)アフリカ児童教育基金の会 ACEF 代表 小椋 とも代  
TEL&FAX: 0743-25-6935 電子メール: headquarters@acef-jpn.com

## 英語版ホームページ開設しました!

<https://acef-kenya.com/>



### 【英語版トップページの写真】

今後は日本人のインターン/ボランティアだけではなく、世界中の人々に ACEF の活動を知ってもらうため、以前から要望のあった英語版ホームページが完成しました。

実はこのホームページ、最初はケニアの WEB 制作会社に依頼したところ、素人の私でももう少しマシなものができるな、と思うほどお粗末な出来あがりになりビックリとガッカリ。近年ケニアも急速に IT 化してきているので、もう少しいい仕事をしてくれるかと思いついたのですが大誤算だったので、急きよ、これまでも協力関係にある ECHO の佐藤洋司氏(ニヤフルル在住)に依頼し直すというハプニングもありましたが、アイデアと技術と情熱を注ぎ、とても見やすい素敵なものを作ってくれました。

既に日本語話者以外のボランティアも募集を開始し、早くも問い合わせが来ています。今後は、日本人以外の人たちともコラボして、ケニアの子ども達の未来が笑顔であふれるよう、まい進していくつもりです。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

高校生学資支援に  
ご協力お願いします

